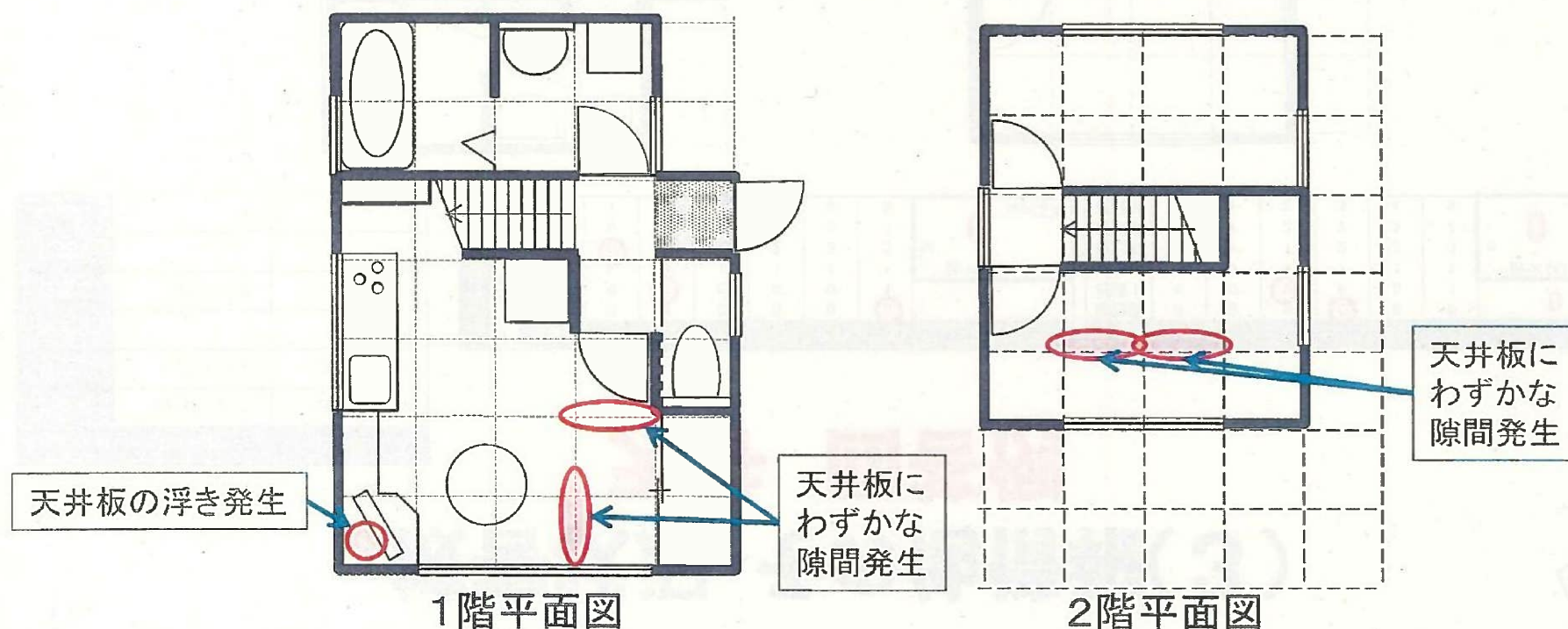


⑪

被害状況・その他情報(3)

天井

確認できた被害は以下の通り。



⑪

被害状況・その他情報(3)

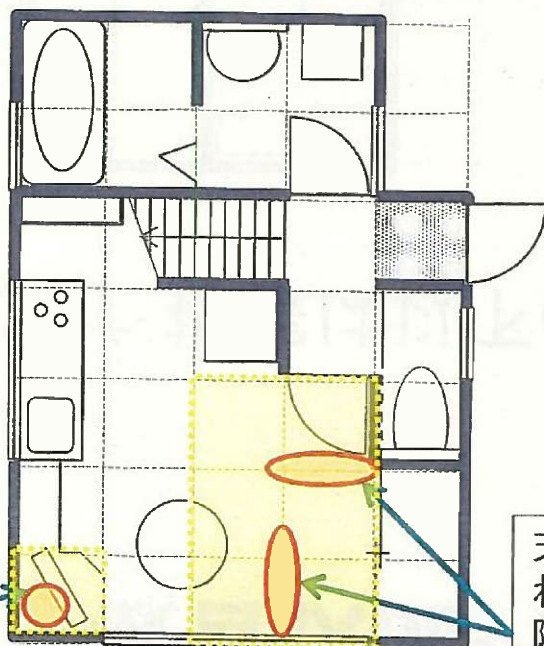
天井 回答例

4

	主要階	その他階
無被害	25/31≒81%	12/20≒60%
程度Ⅰ	6/31≒19%	8/20≒40%
程度Ⅱ	-	-
程度Ⅲ	1/31≒10%	-
程度Ⅳ	-	-
程度Ⅴ	-	-

面積率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0
程度Ⅰ	0	0	0	0	0	1	計×(3)
程度Ⅱ	0	0	1	1	1	1	M
程度Ⅲ	0	1	1	2	2	3	0
程度Ⅳ	0	1	2	2	3	4	点/5点
程度Ⅴ	1	1	2	3	4	5	

面積率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0
程度Ⅰ	0	0	0	0	0	1	計×(4)
程度Ⅱ	0	0	1	1	1	1	S
程度Ⅲ	0	1	1	2	2	3	0
程度Ⅳ	0	1	2	2	3	4	点/5点
程度Ⅴ	1	1	2	3	4	5	



1階平面図

(天井31マス)



2階平面図

(天井20マス)

天井板に
わずかな
隙間発生
程度:Ⅰ
範囲:8マス

天井板に
わずかな
隙間発生
程度:Ⅰ
範囲:6マス

天井板の浮き発生
程度:Ⅲ
範囲:1マス

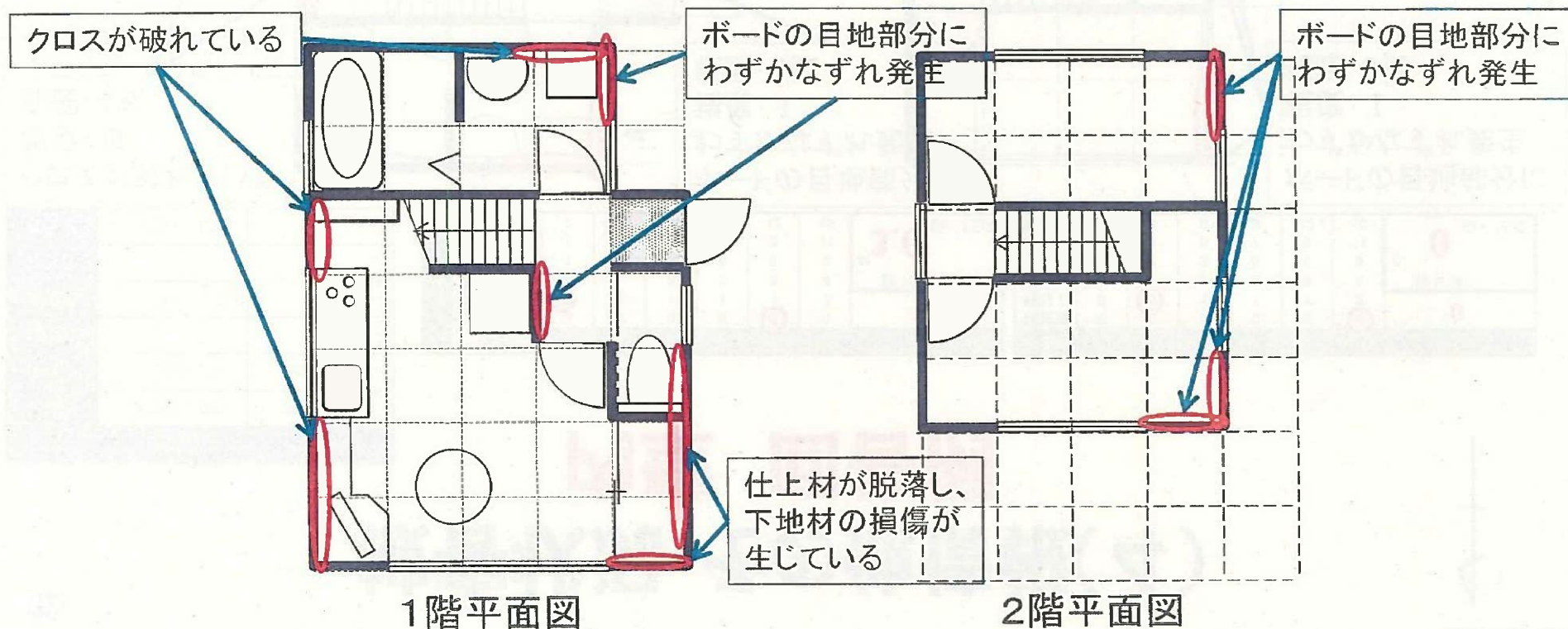
⑫

被害状況・その他情報(4)



・内壁

確認できた被害は以下の通り。



⑫

被害状況・その他情報(4)

内壁 回答例

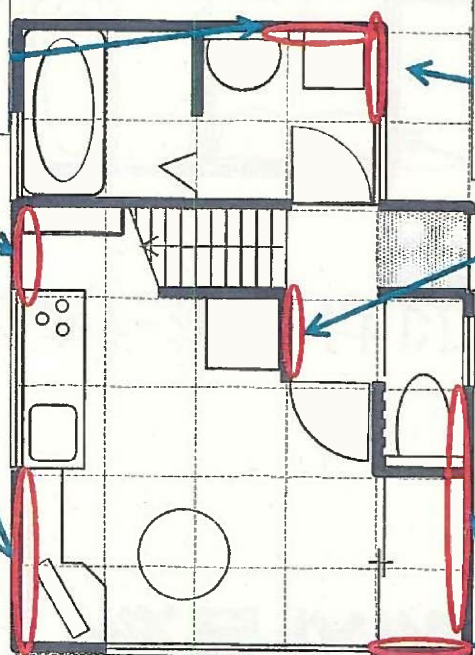
4

	主要階	その他階
無被害	23/33≒70%	20/23≒87%
程度Ⅰ	2/33≒6%	3/23≒13%
程度Ⅱ	-	-
程度Ⅲ	4/33≒12%	-
程度Ⅳ	-	-
程度Ⅴ	4/33≒12%	-

面積率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	5
程度Ⅰ	0	0	1	1	1	2	計×(3)
程度Ⅱ	0	1	2	2	3	4	M 3.0
程度Ⅲ	1	2	3	5	6	8	点/15点
程度Ⅳ	1	2	5	7	9	11	
程度Ⅴ	2	3	6	9	12	15	

面積率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0
程度Ⅰ	0	0	1	1	1	2	計×(4)
程度Ⅱ	0	1	2	2	3	4	S 0
程度Ⅲ	1	2	3	5	6	8	
程度Ⅳ	1	2	5	7	9	11	
程度Ⅴ	2	3	6	9	12	15	点/15点

クロスが破れている
程度：Ⅲ
範囲：4枚

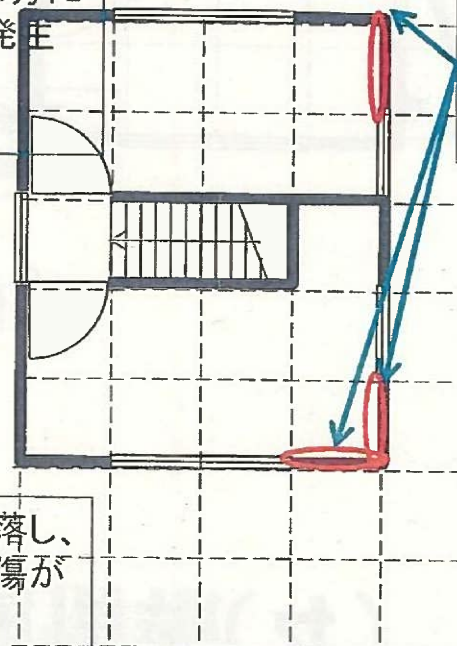


1階平面図

(壁33枚)

ボードの目地部分に
わずかなずれ発生
程度：Ⅰ
範囲：2枚

仕上材が脱落し、
下地材の損傷が
生じている
程度：Ⅴ
範囲：4枚



2階平面図

(壁23枚)

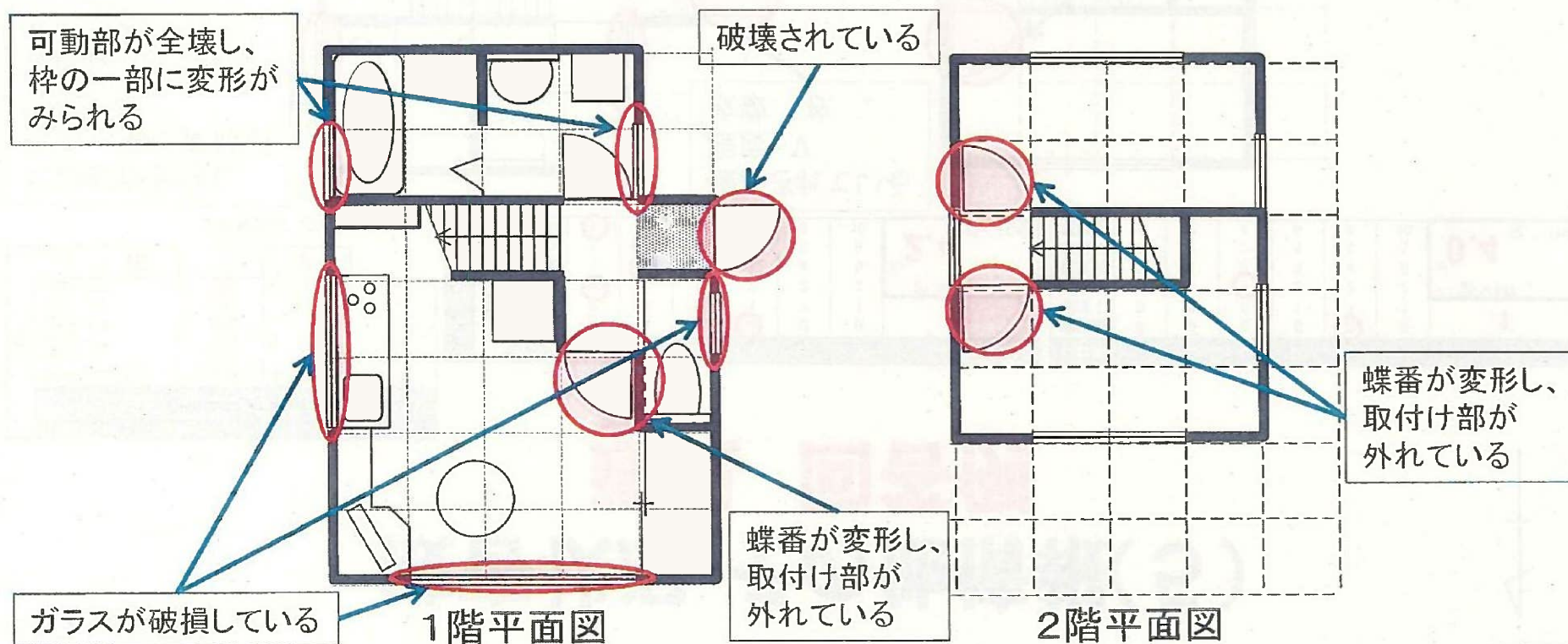
ボードの目地部分に
わずかなずれ発生
程度：Ⅰ
範囲：3枚

⑬

被害状況・その他情報(5)

・建具

確認できた被害は以下の通り。



⑬

被害状況・その他情報(5)

建具 回答例



被害程度	主要部		その他部	
	建具の枚数 (カ)	枚数率 (カ)/(カ+10%)	建具の枚数 (キ)	枚数率 (キ)/(キ+10%)
無被害	正	53%	正	78%
程度Ⅰ	正	—	正	—
程度Ⅱ	—	7%	下	22%
程度Ⅲ	下	20%	—	—
程度Ⅳ	下	13%	—	—
程度Ⅴ	—	7%	—	—
合計	(カ) 15		(キ) 9	

この数値を元にして、⑬へ記入する

被害程度	枚数率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0	4
程度Ⅰ	0	0	0	1	1	1	1	計×(3)
程度Ⅱ	0	0	1	2	2	3	3	M 2.4
程度Ⅲ	1	1	2	3	4	5	5	点/10点
程度Ⅳ	1	2	3	5	6	8	8	
程度Ⅴ	1	2	4	6	8	10	10	

被害程度	枚数率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0	1
程度Ⅰ	0	0	0	1	1	1	1	計×(4)
程度Ⅱ	0	0	1	2	2	3	3	S 0.4
程度Ⅲ	1	1	2	3	4	5	5	点/10点
程度Ⅳ	1	2	3	5	6	8	8	
程度Ⅴ	1	2	4	6	8	10	10	

可動部が全壊し、
枠の一部に変形が
みられる
程度Ⅳ
枚数:2枚

破壊されている
程度:Ⅴ
枚数:1枚

ガラスが破損している
程度Ⅲ
枚数:3枚

1階平面図
(建具15枚)

蝶番が変形し、
取付け部が
外れている
程度:Ⅱ
枚数:1枚

2階平面図
(建具9枚)

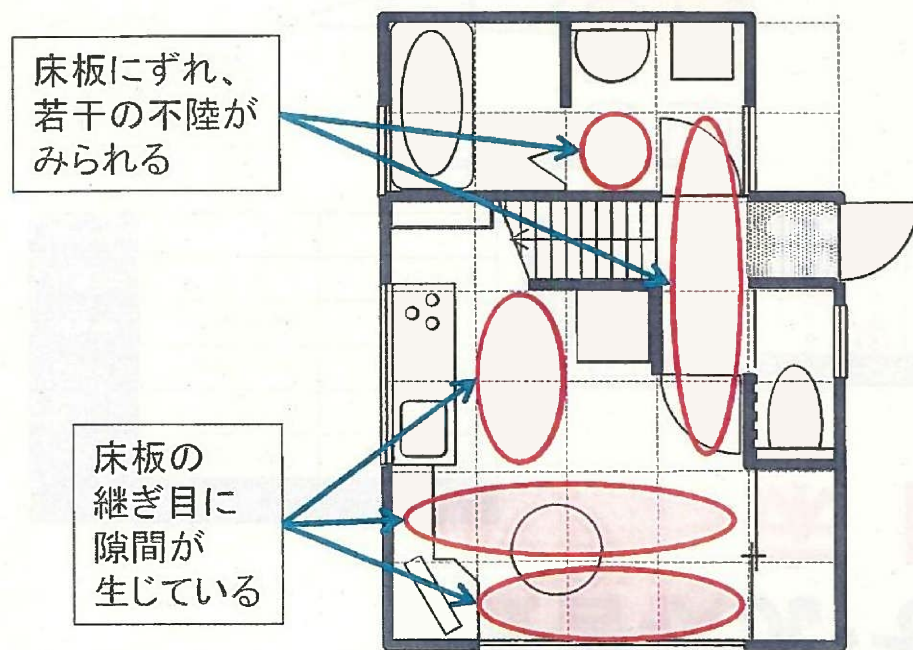
蝶番が変形し、
取付け部が
外れている
程度:Ⅱ
枚数:2枚

⑭

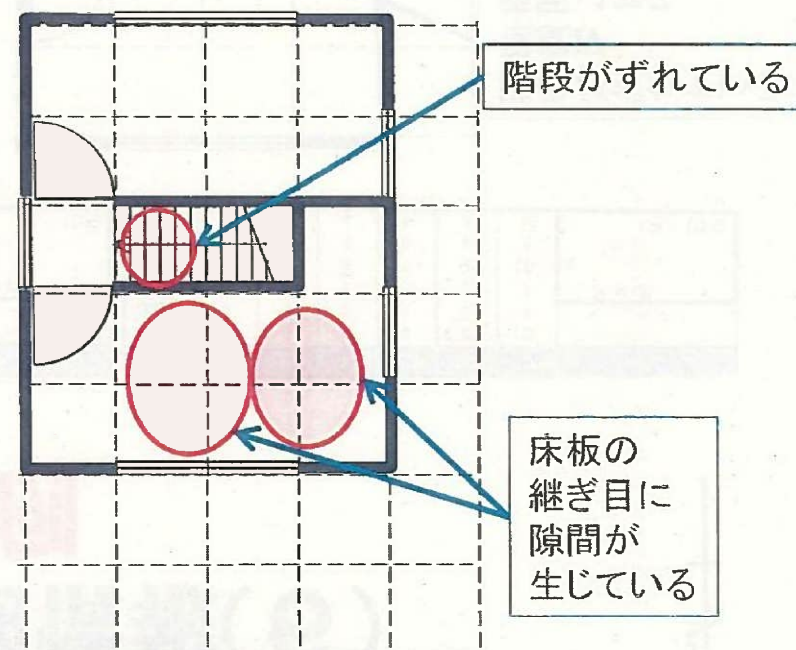
被害状況・その他情報(6)

床（階段含む）

確認できた被害は以下の通り。



1階平面図



2階平面図

14

被害状況・その他情報(6)

床 回答例

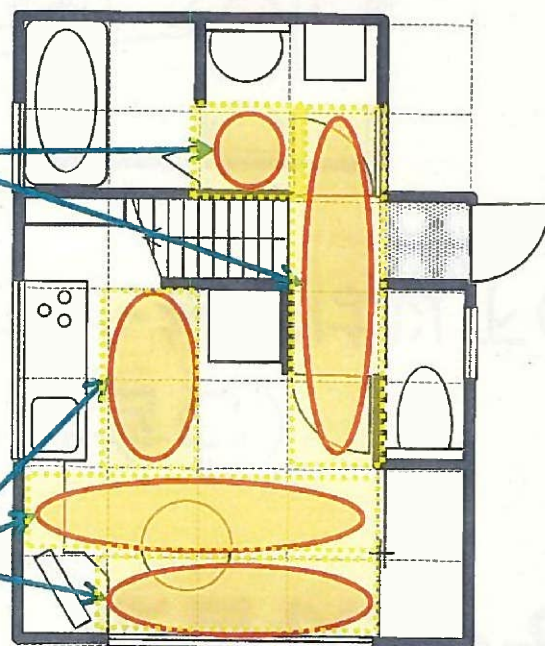
	主要階	その他階
無被害	25/32≒56%	12/19≒63%
程度Ⅰ	-	-
程度Ⅱ	9/32≒28%	6/19≒32%
程度Ⅲ	5/32≒16%	-
程度Ⅳ	-	1/19≒5%
程度Ⅴ	-	-

床	被害率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	3	0	0	0	2
程度Ⅰ	0	0	0	1	1	1	1	3
程度Ⅱ	0	1	1	2	3	3	3	12
程度Ⅲ	1	1	2	3	4	5	5	21
程度Ⅳ	1	2	3	5	6	6	6	33
程度Ⅴ	1	2	4	6	6	10	10	49
計	3	6	10	18	20	25	25	127

床	被害率	～10%	～20%	～40%	～60%	～80%	～100%	計
無被害	0	0	0	0	0	0	0	0
程度Ⅰ	0	0	0	1	1	1	1	4
程度Ⅱ	0	1	1	2	2	3	3	12
程度Ⅲ	1	1	2	3	4	5	5	21
程度Ⅳ	1	2	3	5	6	6	6	33
程度Ⅴ	1	2	4	6	6	10	10	49
計	3	6	10	18	20	25	25	127

床板にずれ、
若干の不陸が
みられる
程度：Ⅲ
範囲：5マス

床板の
継ぎ目に
隙間が
生じている
程度Ⅱ
範囲：9マス

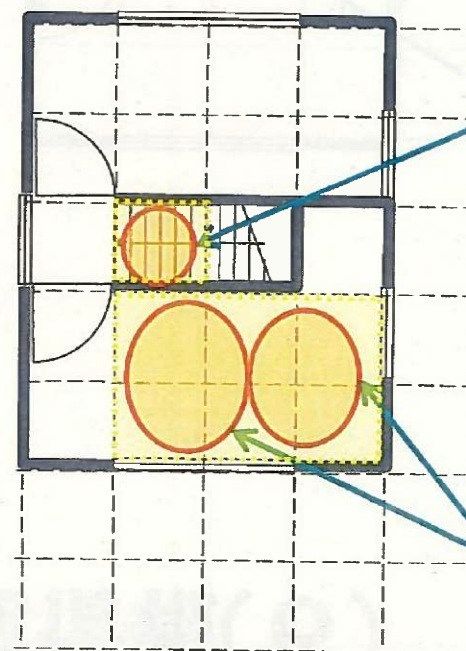


1階平面図

(床・階段32マス)

階段がずれている
程度Ⅳ
範囲：1マス

床板の
継ぎ目に
隙間が
生じている
程度Ⅱ
範囲：6マス



2階平面図

(床・階段19マス)

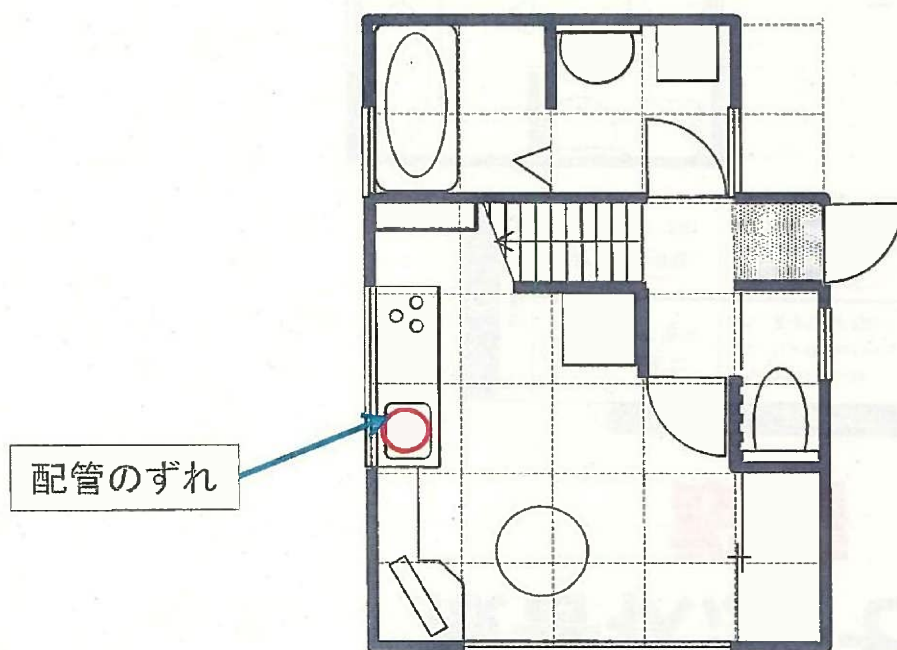
⑮

被害状況・その他情報(7)

・設備

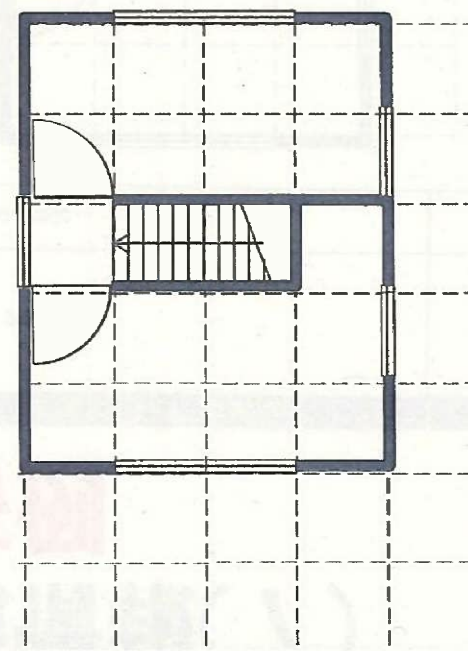
確認できた被害は以下の通り。

設備1カ所2点



配管のずれ

1階平面図



2階平面図

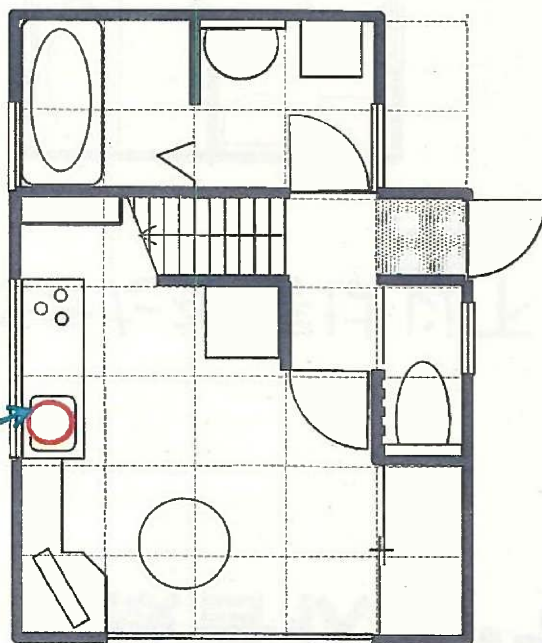
15

被害状況・その他情報(7)

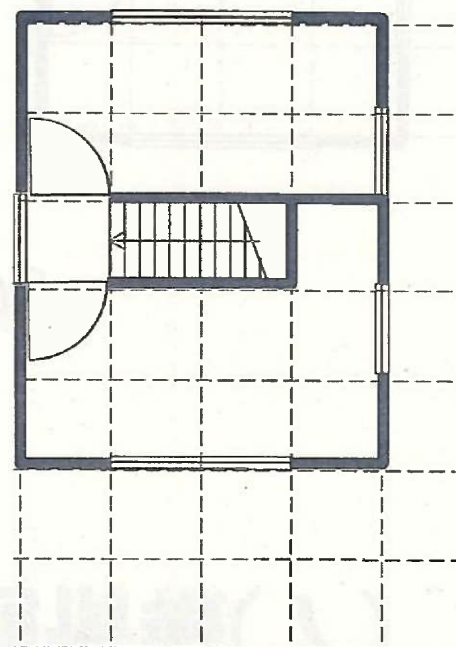
設備 回答例



		階	設備の状況	階	設備の状況	点	計
15 10 点	浴室 (3.0坪)	主要階 その他階	1点 扉の交換等 2点 バスバンの設置等 3点 再使用が不可能	その他 (洗面・トイレ・ キッチン等 4.5坪)	主要階		主要階 M
	台所 (3.0坪)	主要階 その他階	1点 配管のズレ等 2点 再使用は可能だが大きく破損 3点 再使用が不可能		その他階		点 S



1階平面図



2階平面図

エアコンは2階-1エアコン等
見合い。

住家被害認定調査（木造／揺れ／2次）

3

判定チェックシートによる
部位の判定

建物外部の被害を確認

建物内部の被害を確認

表面左下

裏面の結果を転記

説明に従って
計算し記入

詳細調査 部位の判定

（調査：裏面の3-1地震調査票1の結果を記入）

部位	構成比	B 被害点数		C 部位別 被害点数 A+B	D 階別重み付け		F 重み付き 被害点数 D+Eただし、 構成比以下	G 傾斜を考慮 した被害点数 A×イ→C F×イ→F
		主要部 M	その他部 S		主要部 A×1.25	その他部 B×0.5		
⑥ 屋根	10			2.8			2.8	
⑧ 屋根	15			1.5		3.0	4.5	2
⑨ 外壁	10	2	0.4	2.4	2.5	1.5	4.0	2.6
⑩ 柱（または耐力壁）	15			1.5	3	2.2	3.2	
⑪ 天井	5						2	0
⑫ 内壁	15	3	0	3	3.75	2	5.75	3
⑬ 建具	10	2.0	0.4	2.4	3	2.2	5.2	2.8
⑭ 床（階段含む）	10	1.2	0.8	2	1.5	2.4	3.9	
⑮ 設備	10		0		2.5	0	2.5	

①～⑮は、調査員が調査した部位の番号。
①～⑮は、調査員が調査した部位の番号。
①～⑮は、調査員が調査した部位の番号。
①～⑮は、調査員が調査した部位の番号。
①～⑮は、調査員が調査した部位の番号。

合計 ア 29

イ 28.35

ウ 38.4

50点～	全壊
40～49点	大規模半壊
20～39点	半壊
1～19点	一部損壊

点数から該当箇所に
チェックする

「ア」、「イ」、「ウ」のうち、
大きい値を当該箇所の被害点数として、記入する。
（1階の場合は点数の右側に「1階」を記入）

39

※裏面の3-1を切り上げる

ア、イ、ウを比較し、最大値を採用

住家被害認定調査（木造／揺れ／2次）

4

最終判定結果を記入
被害認定区分の記入

表面左下

全ての調査が終了したら、所定欄の内容を確認して最終判定を記入してください。

判定結果		点数に応じた判定結果を記入する									
QR CODE 20×20mm	調査番号 □□□□□□□□	<p>エ、オ（エ・オ・ロ）の中から被害点数が大きい順を記入する。 ※この表が算出されている場合は記入不要。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">点数（数値を記入し、対応箇所に1印を付ける）</th> </tr> <tr> <th>エ、オ</th> <th>十の位 一の位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エ</td> <td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td> </tr> </tbody> </table>		点数（数値を記入し、対応箇所に1印を付ける）		エ、オ	十の位 一の位	エ	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	オ	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
点数（数値を記入し、対応箇所に1印を付ける）											
エ、オ	十の位 一の位										
エ	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9										
オ	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9										

以下の場合、ここは空欄になります。
・簡易調査で判定結果が出た場合（無被害or全壊）

第2次調査の流れを把握する

②液状化被害がある場合

地盤	2次調査に一度行ったが、その後、住民からの申し出により液状化が発生していたことが判明。 不同沈下による住家の潜り込みが見られる。なお、潜り込みは15cm程度である。
建物の傾き	（前回調査時と変わっていない） 2か所計測できた。120cmの下振りでそれぞれ4.1cm、3.2cmという結果となった。

住家被害認定調査（木造／揺れ／2次）

1

全体概要や図面等を記入

調査日時等を記入

建物の図面等を記入

表面左

地震被害／木造・プレハブ用（内閣府指針準拠）
住家被害調査票＜その1＞

木造 2次 1 地震動調査票

調査日時 西暦 20 年 月 日 時 分

居住者氏名
住所
電話番号

建物名称
用途
構造

1 地震動（ゆれ）による被害

2 被害状況の判定（外観目視調査）

START ▶

1 被害状況を確認する

2 被害状況を確認する

3 被害状況を確認する

4 被害状況を確認する

5 被害状況を確認する

6 被害状況を確認する

7 被害状況を確認する

8 被害状況を確認する

9 被害状況を確認する

10 被害状況を確認する

11 被害状況を確認する

12 被害状況を確認する

13 被害状況を確認する

14 被害状況を確認する

15 被害状況を確認する

判定結果

1次調査と同じ調査番号を記入

表面左上（拡大図）

地震被害／木造・プレハブ用（内閣府指針準拠）
住家被害調査票＜その1＞

木造 2次 1 地震動調査票

調査日時 西暦 20 年 月 日 時 分

居住者氏名
住所
電話番号

建物名称
用途
構造

1 地震動（ゆれ）による被害

2 被害状況の判定（外観目視調査）

START ▶

1 被害状況を確認する

2 被害状況を確認する

3 被害状況を確認する

4 被害状況を確認する

5 被害状況を確認する

6 被害状況を確認する

7 被害状況を確認する

8 被害状況を確認する

9 被害状況を確認する

10 被害状況を確認する

11 被害状況を確認する

12 被害状況を確認する

13 被害状況を確認する

14 被害状況を確認する

15 被害状況を確認する

判定結果

1次調査と同じ調査番号を記入

液状化：有 調査回数：2回目

原稿から該当箇所を
チェックする

3

建物外部の被害を確認

建物内部の被害を確認

表面



地震被害／木造・プレハブ用（内閣府統計単位）
住家被害調査票 くその1>

木造 2次

1 地震動調査区

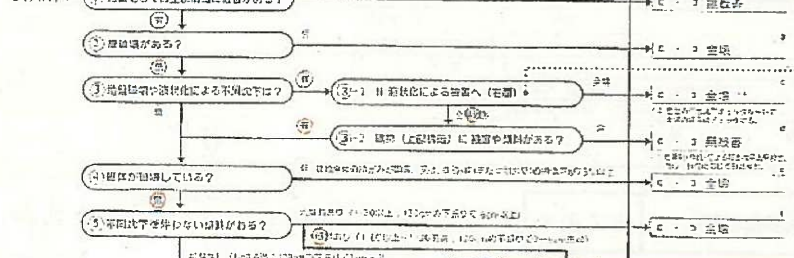
2 液状化調査圖

[illegible]

I 地震動（ゆれ）による被害

建築物全体の判定（外観目視調査）

START ▶



部位の判定 (内臓系入課費:食糧の3.1、日用品系1の4.4を記入)

部面	現況数	A	B	C	D	E	F
		間別品目別集積数 主原料 品目	その他積 品目	部造別 集積品目 A+B	間別品目別積 数 A×1.25	部造別 集積品目 C×0.5	部造別者 間集積品 目 D+E×1.25
⑩ 基盤	16						
⑪ 配筋	15						
⑫ 鉄筋	10						
⑬ 柱・梁・鉄骨内装	15						
⑭ 天井	5						
⑮ 内装	15						
⑯ 建築	16						
⑰ 床・階段等	16						
⑱ 建築	16						

[illegible]

22

50 まで

$$\frac{dC}{dt} = -k_1 C$$

20~39歳

1-12点 6:15
C-2 一節課

1

点数から該当国系に
チェックする

「ア」イ、(1)昭和47年度に於いて、
たさい金をその減額を算出して、
「ア」の項に於いて、



工、才を比較し、
最大値を採用

・ II 液状化による被害

II-1

不同沈下チェックシートによる判定

下部鉄筋(計4筋)	1/20以上	1/50以上 1/20品算	1/100以上 1/50品算	1/100 未満
より以上				
径以上 1m (1.5m)	空欄	金	金	金
径以下 0.5m)	空欄			
径以下 25cm まで (0.25m)	金	金		
それ以下	空欄			

C欄また
合計値

主眼の場合は
云々の野次郎
の若き面影に
エックして胸
を打つる。
主眼以外の場

床面積の割合(R)の算定

C欄またはF欄のうち、
合計値が大きいもの
を採用し転記する。

II-4

0-1の結果にしたがってH1からH8から1つを選択し、(空欄)に
左側の記位の判定結果(C欄またはF欄の値)を転記して合算する。

部位	例高比	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8
(A) 基礎	10				10	10		10	10
(B) 梁床	15								
(C) 窓枠	10	1.0xR	/	2.0	1.0xR			1.0xR	
(D) 柱(壁仕切板内側)	15	/	/	/	/	/	/	/	/
(E) 天井	5								
(F) 西壁	15	1.5xR	/	2.0	1.5xR			1.5xR	
(G) 豆割	10	/	/	2.0	/	/	/	/	/
(H) 床(壁仕切板)	10	10	10	10	10	10	10	1.5xR	1.0xR
(I) 壁脚	10	/	/	1	/	/	/	/	/
(J) 壁面		2.0xR-2.0xR	/		2.0xR-2.0xR	/		*2.0xR-2.0xR	2.0xR-2.0xR
(K) 隅材	25	25	25	25	/	/	/	/	/
(L) 土留		/	/	/	/	/	/	/	/

住家被害認定調査（木造／揺れ／2次）

4

最終判定結果を記入
被害認定区分の記入

表面左下

全ての項目が完了したら、判定表の内容を確認して最終判定を記入してください。

判定結果		点数に応じた判定結果を記入する	
QR CODE 20×20mm	調査番号	工、才	+
		5	7

工、才（才）は、調査結果が大きい値を記入する、
（工）は、調査結果が小さい値を記入する、
（才）は、調査結果が大きい値を記入する、

点数（数値を記入し、対応箇所に「印」を付ける）	
工、才	+
5	7

Copyright © 2014 InterRisk Research Institute & Consulting, Inc. All rights reserved.

以下の場合、ここは空欄になります。

- ・簡易調査で判定結果が出た場合（無被害or全壊）
- ・不同沈下チェックシートで全壊となった場合

